

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.311

November 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN



クリスマス祝賀会のお知らせ

今年も恒例のクリスマス祝賀会を開催します。

クリスマス祝賀会は、神戸日独協会の伝統ある最も重要な行事の一つです。

多くの会員にご参加をいただき、この一年の協会での活動を振り返り、楽しい懇談の一夜を過ごしていただきたく、ご案内いたします。

今年も祝賀会に先立ち、ミニコンサートを行います。理事の次郎丸智希氏によるピアノ・語りで、祝賀にふさわしい楽しい音楽や、モーツァルトやシューベルトなどウィーンゆかりの作曲家をめぐる物語を朗読でお送りするなど、多彩なプログラムを予定しています。

祝賀会ではクリスマスソングを参加者で合唱をしてクリスマスのお祝いをし、お楽しみ抽選会も行います。美味しいお食事や会員との懇談を楽しみ、クリスマスを会員みんなで祝賀しましょう！ご参加をお待ちしています。

日 時： 2016年12月4日(日) 17:00~20:00 (受付は16:30から)

会 場： 神戸倶楽部 (Kobe Club)
(神戸市中央区北野町4丁目15-1 TEL 078-241-2588(代))

会 費： 会員 7,000円 非会員 7,500円 (着席ビュフェ、飲物は各自払い)

定 員： 80名 定員になり次第締め切らせて頂きます。

申込・問合せ：NPO 法人 神戸日独協会事務室

12月1日(木)までに事務室に電話・ファックス・メールで申込の上、同封の郵便振込用紙にて会費をお振込み下さい。

月～金の 12:00~18:00 に TEL/FAX 078-230-8150 E-mail:info@jdg-kobe.org

※振込用紙の通信欄に「クリスマス」とご記入下さい。

ドイツ語談話室

第155回ドイツ語談話室

日時：2016年10月15日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：ボランティア活動

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、日本でのボランティア活動について、古くから地域での活動はあるが、1995年の阪神大震災をきっかけとして広域的なボランティア活動が根付き始めた事を振り返られた。将来的には、高齢人口の増加に対する社会福祉的なボランティア活動の広がりが期待される。次に、参加者がテーマについて話し合った。その一部を紹介する。

テーマに入る前に、グリュンヴァルト財団の研修生として吹田に住み、3カ月間日本を体験しているミュンヘン出身の青年が参加したので、自己紹介とこれまでの日本体験談を話してもらった。

—ある参加者は、子供の頃ボーイスカウトで、戦後摩耶ケーブルが再開する時の路線清掃活動に参加、また、甲子園の高校野球入場式では各参加校の先導役をした。今は、住んでいるマンションの植栽や花壇の維持をするボランティアグループで活動中。

—確かに災害ボランティアは根付いてきているようだが、これは一過性のものだ。もっと制度としてのボランティア活動が根付く必要がある。この点、ドイツはボランタリー活動先進国だけあって、きちんとしたボランタリー活動の制度が出来上がってシステム化されている。

—図書館や学校で子供たちに民話やおとぎ話の語り部の活動をしている。また、漢字の指導も行っている。

—ある新聞の「ボランティアのすすめ」と題した記事によると、現役引退後の日本人がボランティア活動に参加している割合は50%以上であり、「楽しく」ボランティア活動をしている様子が分かる。

—地域の高齢者の方達に英語のレッスンをしている。いつも参加者の皆さんをうまく褒めることに腐心している。

—デュッセルドルフに住んでいた日本婦人たちを集めて女性コーラスグループを結成し、そのまとめ役として10年間活動した。ドイツのオーケストラと交渉して合唱のコンサートを何回も開催したのはとても楽しい経験だった。

—カトリック教会に属していて、色々な奉仕活動をしている。その中の一つに、知的障害を持つ人々を援助する、ラルシュカナの家の活動も手伝っている。また、路上生活者の支援もしている。

—ボランティア通訳として、大阪万博時代を含め、多くの機会に通訳の仕事を手伝っている。

—YMCA で、子供や中高生たちにボランティアで英語を教えたり、英語通訳のお手伝いもしている。

今後のドイツ語談話室の予定

第156回 11月19日(土) 14-16時 テーマ：新しいアメリカ大統領

第157回 12月17日(土) 14-16時 テーマ：酒の肴

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 155. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 15. Oktober 2016, 14 bis 16 Uhr

Thema: Freiwillige Aktivitäten

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und erzählte, dass in Japan in regionalen Gemeinden schon lange freiwillige Aktivitäten üblich waren, seit der großen Katastrophe von Hanshin-Awaji im Jahr 1995 die Aktivitäten aber auch auf Landesebene zunahmen. Auch in Zusammenhang mit der Zunahme der älteren Bevölkerung erwartet man in Zukunft einer Erweiterung freiwilliger Sozialaktivitäten. -Dieses Mal hat auch der 12. Stipendiat der Grünwald Stiftung teilgenommen. Er kommt aus München und wohnt 3 Monate lang in Suita. Er sprach darüber, was er bei seinem bisherigen Aufenthalt als ungewöhnlich empfand.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderen zu folgenden Wortmeldungen.

-Ein Teilnehmer war als Kind Pfadfinder und machte bei verschiedenen freiwilligen Aktivitäten mit, wie z.B. die Reinigung der Maya Bergbahnlinie bei ihrer Wiedereröffnung nach dem zweiten Weltkrieg. Bei der Eröffnungszeremonie des Oberschule Baseball-Turnieres im Koshien-Stadion führte er ein Team einer Oberschule. Heute ist er als freiwillige Gärtner für die Apartmenthäuser tätig, wo er wohnt.

-Nach der Meinung eines Teilnehmers sind die freiwilligen Aktivitäten im Fall von Katastrophen eher einmalige Phänomene. Ein dauerndes System für solche Aktivitäten ist wünschenswert. Deutschland ist in Bezug auf freiwillige Aktivitäten ein fortgeschrittenes Land und verfügt über gute Einrichtungen, diese Aktivitäten effektiv zu organisieren.

-Eine Teilnehmerin erzählt Kindern Märchen in Bibliotheken und Schulen. Sie lehrt die Kinder auch *Kanji* (Chinesische Schriftzeichen, wie sie im Japanischen verwendet werden).

-Ein anderer Teilnehmer zitierte einen Artikel aus einer Zeitung mit dem Titel „Anregungen zu freiwilligen Aktivitäten“. Diesem Artikel zufolge, sind mehr als 50% der Rentner in Japan an freiwilligen Aktivitäten beteiligt und haben Freude daran.

-Ein Teilnehmer lehrt ältere Bürgerinnen und Bürger der Stadt Englisch. Er gibt sich Mühe und lobt die Teilnehmerinnen und Teilnehmer für ihre Leistungen.

-Eine Teilnehmerin begründete mit anderen japanischen Frauen in Düsseldorf einen Chor und war 10 Jahre als freiwillige Betreuerin dieses Chores tätig. Dabei organisierte sie auch Konzerte des Chores mit deutschen Orchestern. Das sind schöne Erinnerungen für sie.

- Eine noch andere Teilnehmerin gehört zu einer katholischen Kirche und ist dort an verschiedenen freiwilligen Aktivitäten beteiligt, im Moment hilft sie bei Aktivitäten der „Arche Kananoie“, einer Organisation, die sich für geistig Behinderte einsetzt. Außerdem ist sie in der Obdachlosenhilfe tätig.
- Eine andre Teilnehmerin ist bei vielen Gelegenheiten als freiwillige Dolmetscherin tätig, so war sie z.B. auch Dolmetscherin bei der Weltausstellung in Osaka.
- Eine Teilnehmerin unterrichtet Kinder und Schüler freiwillig Englisch beim YMCA und arbeitet auch als Dolmetscherin.

Nächste Treffen:

Samstag 19. November 2016, 14 bis 16 Uhr, Thema: Die Präsidentschaftswahlen in den USA

Samstag 17. Dezember 2016, 14 bis 16 Uhr, Thema: Passende Speisen zu Bier, Wein und Sake

日独若者の「神戸再発見」

第34回「秋の遠足・彦根城」(協会・GJG 共同主催)報告

2016年10月23日(日)

会員 SUNG Kwang-Hye

『直虎と直政』を出版された会員の野中信二さんのご案内で、彦根城を見学しました。

参加者12人中、GJG のメンバーは3人ですが、年齢に関係なく気持ちは皆、GJG のメンバーです。GJG は、参加者のお世話役・写真を担当させていただきました。

まず、集合場所の彦根駅前で、野中さんから井伊直虎・直政、彦根城についての概要説明を受け、いざ出発です。が、その前に腹ごしらえ・・・と、皆で鮎の塩焼き御膳の昼食をいただきました。少し苦みのある大人の味に GJG のメンバーも大満足です。

昼食後、現地ガイドさんの案内で、博物館、天守、玄宮園他を見学しました。築城に際し、敵から守るために様々な方法を取り入れているさまや、博物館での参勤交代に関する企画展、天守の急な階段、玄宮園の雅な佇まいを堪能し最後に埋木舎で「井伊直弼の生涯」と題する講演会に参加しました。この講演会は、直弼の子孫にあたる彦根市歴史民俗資料室の井伊さんが担当されており、歴史は現在にも通じていることを実感できました。

来年の大河ドラマの主人公は井伊直虎です。今から楽しみです。

夕食は、レストラン「ヴェルツブルク」でドイツ料理に舌鼓。ドイツについて、次の GJG のイベントについて・・・などなど話題は尽きません。

野中さん、本当にお世話になりました。参加者の皆さん同志もお話が弾み、素敵な会員親睦となりました。

第35回 絵付け体験 /35. Treffen: Porzellanmalerei

陶磁器上絵付けをしていらっしゃる國府典代先生にご協力いただき、絵付け体験を行います。クリスマスモチーフにチャレンジしてヨーロッパ陶磁器の魅力の一端に触れ、アドヴェントの季節と一緒に楽しみませんか？

Nächstes Mal beschäftigen wir uns mit Porzellanmalerei. Wollen wir zusammen versuchen, zum Weinachten zu malen und die Adventszeit zu genießen?

■日にち/Zeit: 2016年11月27日(日曜日)/ Sonntag 27. November 2016

Aグループ: 13:00~15:00頃(5名/ 5 Personen)

Bグループ: 14:00~16:00頃(5名/ 5 Personen)

絵を描くのに約1時間、焼き付けに約1時間を見込んでいます。

※一度に最大3個焼き付けのため、参加人数が6人以上の場合は後日事務室で受け取りになる事があります。

Ca. 1 Stunde fürs Malen und ca. 1 Stunde zum Einbrennen.

※Da maximal 3 Stücke auf einmal wird eingebrannt, falls die Teilnehmer mehr als 6 Personen sind, werden Sie die Fertigware nach einigen Tagen im Büro annehmen.

■内容/Inhalt:

ペンダントトップ(約5cm×3.5cm :しずく形)に絵を描きます。リボンを通せばクリスマスツリーに飾れるオーナメントにもなります。絵は当日図案例を参考に決めていただいても、事前に考えてきていただいたもの(シンプルなものがおススメ)でもかまいません。日独協会では前年の作例(ブローチ)をご覧ください。

Eine kleine Anhänger (Ca. 5cm × 3.5cm : eine Tropfen Form) bemalen: Was Sie malen, können Sie an dem Tag mithilfe der Muster entscheiden oder vorher vorbereiten (da die Brosche klein ist, wird ein einfaches Bild empfohlen). Man kann im Büro der JDG Kobe einige letztjährigen Werke (die Broschen) sehen

■場所/Ort: 神戸日独協会会議室/ Konferenzraum der JDG Kobe

■費用/Kosten: 1,000円/1,000 Yen (当日支払い)

■申込/Anmeldung: 2016年11月23日(水曜日)まで/

Bis Mittwoch 23. November 2016

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

☆ 可能な方はお菓子を少しお持ちよりいただけると嬉しいです。

Es wäre nett, wenn Sie ein Päckchen Süßigkeiten mitbringen könnten.

「神戸日独協会 ドイツワインの会」

「日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり」をコンセプトに、新企画「神戸日独協会 ドイツワインの会」の第1回目が20余名の参加者を得て開催されました。

第1回「世界のワイン、ドイツのワイン」/1.: WEINPROBE

■日時: 2016年11月6日(日曜日)14:00~16:30

■場所: 神戸日独協会会議室

■講師: 株式会社ドイツ商事代表取締役社長松田耕治氏(神戸日独協会理事)

「神戸日独協会 ドイツワインの会」に参加してみても

中川 紀子

11月6日に行われた「ドイツワインの会」に初めて参加させていただきました。

どんな雰囲気なんだろうとドキドキしていましたが、“日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり”というコンセプトと、ドイツで飲んでいたワインがどうしてあんなに美味しかったのか、秘密が知りたいという思いから参加を決めました。

第一回のテーマは「世界のワイン、ドイツのワイン」ということで、株式会社ドイツ商事の松田耕治講師の分かりやすくユーモアのある楽しい解説のもと、クイズ形式でドイツワインの基礎を学び、ボージョレヌーボのお話やワインと健康について、またワインに欠かせないコルク栓に関する事など、単にワインのことだけではなくそれにまつわる歴史や時代背景も含めたお話しを、試飲のワインを片手に楽しく勉強できた時間でした。

今までは、ワインの知識は無くとも出されたワインはいつも美味しくいただくことを得意としてきましたが、今回のように少しでも勉強をしてみると、エチケットの読み方が分かってきたりして自分で好みのワインを見分けることもできるようになるんだなど、さらにドイツワインとドイツ語が好きになった気がします。

これからシリーズとして続いていく「ドイツワインの会」。ぜひとも若い方の参加もどんどん増え、様々な年代の方との交流ができればいいなと感じました。

新企画「ドイツワインの会」開催までの道のり

理事 日下 澄子

11月6日(日)の新企画「ドイツワインの会」の第1回目が終わり、今とてもホットしているところです。今回の開催までの道のりについて少し紹介いたします。今回は、神戸日独協会の実行委員会メンバーの中でも若手を中心に企画を進めました。実行委員会で起案されたのは初夏でした。ドイツワインの会を開催してみたいと言ってみたものの、「そもそもそんなにワインを飲んでこなか

った私たちに企画ができるかな」という漠然とした不安でスタートし、不安に思っても解決しないし、とにかく企画を進めてみようかと徐々に前向きになり、ついにはどうせやるなら神戸日独協会の私達らしく、明るく・楽しく・真面目に・素直に(!?)ワインを楽しめるようにしたい、ワインに対して同じように感じている方々と同じ目線で一緒に歩める会にしたい！と、気持ちがとても前向きに変化し、さらに企画草案前より何度も相談のお時間を割いてくださった神戸ローテ・ローゼの松田さんからのご意見やアドバイス、柘田先生ご夫妻からのご助言等もあり、突き進むことができたのでした。

ローテ・ローゼの松田さんからは土用の丑の日にみっちり講義いただきました。はじめは一緒に企画を進めた足立さんの旅の相談と企画のネタ探しのためにポツリポツリと話が始まったのですが、松田さんのワイン話が非常におもしろく、試飲も挟んでヒートアップ！結果的に約5時間の夏期集中講義を受けることができました。この集中講義が進むうちに、「私たちと同世代はワインをあまり飲まない」「ワインのことって、知っているようで知らない(誤解が多い)」「本に書いてあることですら『今』のドイツワインではない」といった課題を実体験し、今回の企画のコンセプト“日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり”が決まったのです。そして集中講義の内容を受けて企画書を作成、柘田先生の中世ドイツ語の会の後でお店に馳せ参じ、企画への想いを熱弁させていただくお時間もいただきました。またある時は、柘田先生に日本酒とビールに関するテキストを参考にとご紹介いただいたこともありました。…このように皆さまのお支えがあり、なんとか開催に至ったのであります。

開催前日、そして当日は細かい段取りが行き届いていないことがわかり、柘田先生ご夫妻や実行委員の北川さんにも奔走いただき、大きなトラブルもなく終了しました。初めてのこととはいえ、私らしいとはいえ、ツメが甘かったなと猛省しています。まだ書き足りませんが、その他のこぼれ話はまたの機会にぜひ聞いてください。またぜひ、神戸日独協会の「ドイツワインの会」を、同じ講座の受講生、ご友人などにお知らせください。たくさんの方々と、ドイツワインを片手にドイツ談義できるようになれば幸いです。

開催までに多大なご協力をいただきました松田さん、実行委員の皆さん、ありがとうございました。

「神戸日独協会 ドイツワインの会」今後の開催予定

第2回目以降は隔月の開催予定です。理事の松田耕治さんに下記のテーマでお話をしていただき、試飲をします。日時など詳細は会報にてご案内しますので、お楽しみにお待ちください。

第2回(1月) 季節のワイン

グリューワインなど季節ごとに楽しみ方が異なる世界のワインと文化を紹介します。

第3回(3月) ぶどうの品種とドイツワイン

ぶどうの種類を軸にワインを解説します。その中でのドイツワインとは？ドイツワインの人気度、生産量、日本への輸出量／輸出金額等についてドイツの地理、地質、法律などにも触れます。

第4回(5月) ワインの産地を知る

オールドワールドとニューワールドそれぞれのワインの特長と、その中におけるドイツワインの

立ち位置とは？ドイツの地理、地質、法律の話題に触れながらドイツワインの産地の特徴を知りましょう。

第5回(7月) 見た目を楽しむワイン

スパークリングワインなど、冷やして飲んで美味しいワインを紹介。併せてワイングラスにも注目。ワインの色や泡立ち、グラス内をつたうワインは何を語っているのか？目で見て飲んで楽しみましょう。

第6回(9月) ワインのヴィンテージ

ワインのヴィンテージとは何か？天候とヴィンテージ、ワインのライフサイクルとは？それぞれの楽しみ方は？ワインのアロマについても触れながら学びます。

第7回(11月) ラベルデザインと等級

ラベルに書かれている情報とドイツ語を眺め、ラベルに書かれている情報からワインを想像してみましょう。ワインショップで、あるいはレストランで、ワイン選びがもっと楽しくなるでしょう。

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第13回 『みんなちがって、みんないい』

今回は、福田さんが現在に至るまでのあゆみについて、失敗やそこからえることが出来たことなども含めお話いただきます。会員のみならず多くの方のご来聴をお待ちしています。

・講師：福田 洋子さん(神戸松蔭女子学院大学 文学部教授)

1950年香川県高松市に生まれる。大学卒業後、24歳で結婚。

1975年から1977年まで大阪に開設されたシンガポール総領事館に勤務する。

1977年から1990年までドイツ銀行大阪に勤務した後、大学教員となり、ビジネスやコミュニケーション科目を担当し現在にいたる。プライベートでは陶芸を楽しんでいる。

・日時：2016年11月18日(金)18:00～20:00 (開場 17:45)

・会場：ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

・会費：会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)

当日受付にて支払ください。

・申込：11月16日(水)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

第12回 『ピナと私 Pina und ich』

・講師：市田 京美(いちだ きょうみ)さん

・日時：2016年10月13日(木)14:00～16:00

・会場：ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

第12回市田京美さん『ピナと私 Pina und ich』を聴講して

香西 愛

2009年6月30日、突然の悲報が世界を駆け巡った。ドイツ人振付家のピナ・バウシュがドイツ内の病院で逝去した。享年68歳。死因は癌だった。癌と診断されてからわずか5日後の突然の死だったという。バウシュさんが所属し、35年以上にわたり芸術監督を務めてきたヴツパタル舞踊団が明らかにした。

バウシュは米国でダンサーとして活躍した後ドイツに帰国。60年代後半より振付を始める。当初は奇抜な表現ゆえに当惑した観客が途中で退出することも多かったが、演劇的手法をダンスに取り入れた自身のスタイルが確立するにつれて熱狂的なファンを増やし、現代舞踊の第一人者となった。日本にもファンが多く、99年には坂本龍一のオペラ『LIFE』に出演している。

そんなバウシュ率いるヴツパタル舞踊団に、1973年単身渡欧し、ただ一人日本人として所属したダンサーがいる—今回、お話を伺うことができた市田京美さんである。73年といえば私が生まれる少し前だが、第4次中東戦争の勃発によるオイルショックで物価が上昇し、トイレットペーパーや洗剤などの買いためが起こった年。田中角栄内閣が列島改造で経済成長の道をつつ走ろうとしていた時代だが、日本経済はこのことを期に高度経済成長に一挙にブレーキがかかった。そのような時代の中で、これからの時代は女性も好きなことをやりなさいと彼女の父は彼女を単身イギリスに送り出す。言葉もままならず何もかもが手探り状態の異国の生活の中で、彼女はその後バウシュに会う契機となるダンスに出会うこととなる。さらに、彼女は後に初めて見たバウシュのコンテンポラリーダンス、「ピナバウシュの世界」に人生で最大の衝撃を受けることになるのだが、彼女はピナバウシュについて、『自分の全ての作品を必ず最後まで観て我が子のように大切に、身体（精神）の中から外に出る動きを非常に大切に、まさしくドイツ表現主義』だと語っていた。その後の81年、ストラヴィンスキーが書いた三大バレエ音楽『春の祭典』にゲスト出演したことをきっかけに、82年～98年まで、同舞踊団に所属。現在はフランスを拠点に「トーマス デュシャトレカンパニー」でダンス指導やリハーサルディレクターを務め、日本でも全国各地でダンスワークショップを行っている。そしてその姿勢も『教えるではなく伝えること... ダンスの素晴らしさを伝えること』。

まさに全ての場面において体当たりの人生だった彼女は、何度も『運命だった』という言葉を使っていたが、彼女が日本人で唯一ピナバウシュの世界に浸れたことは、その真摯な言動による引き合わせではなかったのだろうか。薫陶を受けたお話。市田京美さん、貴重な体験談を本当にどうもありがとうございました。

「ピナと私」と私

会員 押尾 愛子

私はバレエやダンスを見るのが好きで、クラシックもモダンも割と見ている。クラシックバレエというのは『白鳥の湖』に代表されるように、バレリーナがチュチュを着てトウシューズで踊るもので、19世紀末に振付家のプティパにより確立されたと言われている。クラシックバレエに現代的な要素を取り入れたものをモダンバレエといい、『 Coppélia 』で人形と踊るローラン・プティや、『ボレロ』

を振り付けたモーリス・ベジャールなどが挙げられる。バレエとダンスの区別は、トゥシューズを履くか履かないくらいとっていいだろう。その中でピナ・バウシュは特別だ。プティの洒落た踊りや、ベジャールのしなやかな振付は、安心して楽しみながら見ていられるのに、Tanz-Theaterと呼ばれるピナ・バウシュの作品は、ダンスと演劇が融合して、ダンスを超えたりアルな動きに釘付けになり、不穏に心の中まで入って来る。

たまたま9月に、そのピナ・バウシュ率いるヴツパタール舞踊団で約20年間踊っていた市田京美さんのワークショップが神戸アートビレッジセンターであり、初心者も参加可能とあったので、ピナ・バウシュのダンスに触れられるかもしれないとの思いから私も参加した。舞台でのピナ・バウシュの振付では、クラシックバレエの動きを見ることはないが、ピナの動きの基本になっているのはドイツ表現主義の舞踏家クルト・ヨースの生み出したもので、その基はクラシックバレエだ。やっぱりクラシックが基礎になっているのだと納得。ワークショップは、それはそれで面白かったが、あの気難しそうに見えるピナの下で20年間踊った人の話を聞きたいと思った。そこで、神戸日独協会のドイツ文化サロンで話をしていただけませんかと訊くと、たまたま日本各地でのワークショップや公演の打合せの合間に空いている日があって、急遽決まった。実はこの講演を一番聞きたがっていたのは、私かもしれない。

1980年代、ピナ・バウシュはかなり話題になっていて、その舞踊団に入りたいと思う人はいっぱいいたはずだ。その狭き門を市田さんはどうして入ったのか？

「偶然というか、運命というか…」大学を卒業した後、市田さんは中学の保健体育の教師になる。が1年で辞めて、友人のいるロンドンに行く。「やりたいことをやれ」と父が言ってくれたが、やりたいことって何だろう。子供の頃、クラシックバレエを2年ほど習い、大学時代は新体操をやった。ダンスをやりたいとロンドンでアダルトスクールに通う。アダルトスクールというのは、学校を夕方、大人向けに開放して、いろいろ教えているのだそうだ。その教師が、モダンダンスで有名なマーサ・グラハムの下で学んだ人だった。そこで3年ほど学び、友人の紹介でドイツのエッセンに行く。その時に、ピナの『春の祭典』にダンサーが4人要ると声がかかり参加する。そしてピナの目にとまり、ヴツパタール舞踊団に入ることになる。オーディションに300人も来るというのに…。舞踊団はヨーロッパ各地からメンバーが集まり、国際色豊か。日本人は市田さんが初めてだった。ヴツパタールは小さな町だけど、毎年3ヶ月くらい公演で大都市に行けるのが息抜きになり、楽しかったとのこと。ピナの公演はパリのような大都市だとチケットが売切れになるのに、ヴツパタールの人には人気がなくて空席があったりしたという。

写真や映像で見るとピナはとても気難しそうに見える。実際そうだったみたいで、ピナがいるとメンバーに緊張感が漂った。一般にバレエは、音楽が先にあり、それに振付するが、ピナの場合は、ピナがメンバーに問いかけ、訊かれた人は、言葉でも動きでも何でもいいからそれに応え、そうやって3～4ヶ月かけて作品を創っていったそうだ。市田さんの案がピナに採用されたにもかかわらず、自分に役が付かず、ただ待っている時は辛かったという。音楽は後からつける。Tanz-Theaterと呼ばれるが、演劇の勉強はせず、クラシックとモダンの基本を毎日やっていた。普通、振付家は振付が出来上ると、初日の舞台だけ見て後はいないことが多いが、ピナは毎日、舞台を見ていたという。だから毎日の公演が緊張の連続で、マンネリにならなかった。2009年にピナが亡くなった後もヴツパタール舞踊団はピナの作品を上演しているが、ピナの場合、きっちり振付を

することは稀なので、そこにピナの作品を上演する難しさがあると市田さんは言う。

市田さんは、ヴッパタル舞踊団に参加していたフランス人のトーマスさんと結婚して、今は、トーマスさんと一緒にフランスでダンスの指導をしている。一人娘のソラちゃんは、小学校の時はドイツ語を話し、その後フランスではリセに通い、父親とはフランス語で会話する。日本語も学びたいと日本のリセ・フランコ・ジャポンに通い、母親とは日本語で話す。娘の話をするとき、市野さんの表情がアーティストから母親に変わった。ちなみに市田さんとトーマスさんの会話は英語だそうだ。

行事参加報告

柘田先生受勲記念祝賀会に出席して

会員 竹林 順子

柘田先生がドイツ連邦共和国より功労勲章功労十字小綬章を授賞された記念祝賀会が10月15日に神戸倶楽部で開催されました。ケーラードイツ総領事ご夫妻をはじめ、来賓や会員など100名近い方が参加した盛大な催しとなりました。発起人を代表して北沢さんの挨拶で始まり、ドイツ総領事からのご祝辞と、井戸兵庫県知事と久元神戸市長からのお祝いのメッセージが披露され、柘田先生が日本語とドイツ語で受章についてお礼のスピーチをされた後、神戸大学武田学長のご発声で Prosit!

美味しいお料理をいただきながら、ドイツ語以外の先生の専門分野であるゴート語と日本酒でも薫陶を受けた数々のエピソードが参加者の方から紹介され、会場は笑いとともに温かい雰囲気になりました。皆さんのお話を聞きながら、自分が先生の講読クラスでお世話になっていた時の授業風景や、授業やイベントの後でお酒の席に誘っていただいた時のことを思い返していました。皆さんのスピーチを聞きながら和やかに歓談していると、結婚披露宴のように先生が奥様と各テーブルに回って来られて、お話されたり記念撮影をしたりで、あっという間にお開きの時間となりました。

協会のイベントに参加するのは久しぶりでしたが、先生と奥様をはじめ、理事・実行委員の皆様や講読のクラスで一緒だった方にも久しぶりにお会いでき、このような華やかな会に参加できて楽しかったです。受章のお祝いに100名近い人が集まる先生の人望の厚さが窺えたひとときでした。後日、お礼状と一緒に送りいただいた写真を見ながら、いい祝賀会だったな、と改めて感じています。

柘田先生、ご受章本当におめでとうございます。どうぞこれからもお体に気をつけてご活躍くださいませ。

寄稿

国際鉄道技術専門見本市/Inno Trans 2016 を訪問して

会員 根木 大助

Berlinにある見本市会場 Messe Berlin で去る9月20日から9月23日までの4日間開催された Inno Trans 2016 という名称の国際鉄道技術専門見本市を訪問する機会がありましたので、このことについて記事を書かせていただきます。

1996年に始まって隔年に開催されているこの見本市は今回11回目となり、その規模も回を追うごとに大きくなって同見本市会場のスペースをほぼ全部使用してしまうほどです。この会場の総展示面積は200,000㎡におよび、これは神戸国際展示場の展示面積合計13,600㎡や幕張メッセの総展示面積である75,098㎡、東京ビックサイト(東京国際展示場)の同80,660㎡と比べても相当大きな規模です。ちなみに前回2014年は146カ国から138,000人以上の来場者数が記録されています。

今回は、2,900以上の出展者が屋内展示場において鉄道に関する各種技術、トンネル建設関連機械や建材、鉄道車両用諸装置や部品、信号や電車線、変電設備に関するもの、駅の案内情報関連機器や各種コンサルティング、鉄道技術関連専門雑誌出版社、その他の分野の展示が行われていました。製品や商品の展示やパネル・映像での紹介はもとより、デジタル化社会における鉄道を中心とした公共交通に関する各種コンベンションや、次世代の若者のために鉄道関連産業への就職希望者向けミーティング、求人情報の提供の場が用意されているのも興味深く感じたところでした。世の中でモノのインターネット IoT(Internet of Things)が進んで行く中、ドイツから始まった第4次産業革命 Industrie 4.0 の取り組みがこのような鉄道関連産業の間でも進展している様子も垣間見たように思います。そして世界の新興国における鉄道インフラ整備に際して、出展企業がそれらの国々への宣伝を強化している中、中国からの出展者数の多さも目を引かれたうちのひとつです。

また、屋外には3,500m のレールを敷設した屋外展示場があり、そこには新型の路面電車、近郊輸送用旅客車両、長距離輸送用高速列車、保守用作業車両が各種展示され、実車の中に立ち入ることができるので来場者の関心を引いていました。

会場を巡り歩いているうち数多くの出展者の中に神戸日独協会の法人会員でもあるバンドー化学(株)のブースを見つけたので立ち寄ってお話をうかがいますと、この見本市には今回初めて出展され主に鉄道車両用の車内のゴム床材の紹介をされているとのことでした。他にも神戸ほか兵庫県内に事業所を持つ日本企業のブースも見かけました。

この4日間の本開催期間が終了した直後の週末の土曜日、日曜日には屋外展示場の展示車両が子供達をはじめとする鉄道ファン向けに見本市よりもはるかに低入場料金で一般開放されているのも興味深い仕組みです。

次の URL で今回の開催の様子が写真で紹介されていますのでアドレスを付記しておきます(ドイツ語・英語)。<http://www.innotrans.com/Press/Photos2016/>

既に次回の開催日程は2018年9月18日～21日に予定されています。この Inno Trans 2016 は一例ですが、ドイツの主要都市が規模の大きな見本市会場を有して各種の見本市を開催し、その期間中に国内外から多くの出展者や訪問者が訪れることで、経済活動の原動力となっているのは象徴的な伝統だと思います。最近の報道で知りましたが、来年3月に Hannover で開催される国際情報通信技術見本市 Cebit 2017 に日本が Partnerland として参加することになったのも産業界における日独関係として注目しておきたいところです。

バレエ鑑賞「椿姫」

理事 日下 澄子

11月5日(土)、ロームシアター京都にて検垣バレエ団公演のバレエ「椿姫」鑑賞の機会があり、見てまいりました。まず感じたのは、バレエ独特の表現のおもしろさです。TVなどで断片的に見た時、「なぜいま女性が持ち上げられたのか」「なぜ回されたのか」「なぜ倒れそうなほど体を倒して男性に寄り添うのか」など不思議に思うことが多々あり、最後まで見ることが億劫でした。当時は自分なりの鑑賞のポイントがわからなかったのだと思います。しかし今回、「椿姫」のストーリーがぼんやりでも頭にあり、踊りも音楽も大迫力で、また自分自身も抽象的なイメージや言葉を具体的に表現する立場になったためか、前述の不思議に思っていたことが、歌も字幕も無いバレエの中での表現方法であることに気づきました。「嬉しい」「悲しい」といった感情表現、「華やか」「不気味」といった場の空気、仕草の一つひとつ。それらを繊細かつ大胆に体全体で表現されたバレエに引き込まれ、気づけば「週明け同僚にこの感動をどう伝えよう？」と考えていました。あっという間のできごとでした。

それからマルグリットを演じた小西裕紀子さんのパワフルで情熱的な動きが何よりも印象的でした。まだバレエの難しいことはわからないけれど、今の私が、自分なりの観点での楽しみを見つけることができたのは、それに気づくことができる大きな感動があったからかなと思います。

ドイツ・クリスマスマーケット 大阪2016

今年も大阪の新梅田シティ・ワンダースクエアで「ドイツ・クリスマスマーケット」が開催されます。高さ27mのクリスマスツリーの周りにヒュッテが立ち並び、各種のオーナメントや伝統工芸品が販売され、温かいグリューワインと焼きソーセージを堪能しながら、ドイツのクリスマス市の雰囲気を楽しめます。

開催期間： 11月18日(金)～12月25日(日)

月～木 12:00～21:00 金 12:00～22:00

土・日・祝 11:00～22:00

開催場所： 新梅田シティ(梅田スカイビル)(JR大阪駅中央北口から徒歩約7分)

神戸日独協会でもドイツ・クリスマス市を体験に行く予定です。詳細はホームページにてお知らせします。

2017年 関西地区日独協会合同新年会 (予告)

2017年1月11日(水) 18:30～20:30にアサヒスーパードライ梅田で開催します。詳しくは、次号でご案内いたします。

事務室からのお知らせ

新事務員紹介

中島由美子さんが事務局に加わりました。よろしくお願いします。

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は12月8日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
11月18日(金) 18:00~	ドイツ文化サロン第13回 「女性が支える国際交流」	ユーハイム 神戸元町本店	11月16日(水)
11月19日(土) 14:00~	第156回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
11月27日(日) 13:00~	日独若者の「神戸再発見」 第35回 絵付け体験	神戸日独協会 会議室(19階)	11月23日(水)
12月4日(日) 17:00~	クリスマス祝賀会	神戸倶楽部	12月1日(木)